

令和6年度

特定非営利活動法人日本レスキュー協会事業報告

(期間：令和6年9月1日から令和7年8月31日)

■日本レスキュー協会全体の動き P：2

- ・組織
- ・組織の動き

■事業の成果

【災害救助犬事業】 P：3～5

- ・災害対応
- ・災害救助犬の標準化に向けた事業
- ・育成
- ・活動資金

【セラピードッグ事業】 P：6～7

- ・被災地慰問
- ・福岡県ワンヘルスの取り組み
- ・セラピードッグ派遣事業とその他プログラム
- ・活動資金
- ・その他

【動物福祉事業】 P：8～10

- ・犬の保護、引き取りと管理に関する事業
- ・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業
- ・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業
- ・災害への対応
- ・ペット防災に関する活動
- ・犬のしつけ方教室の開催
- ・保護犬から災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業
- ・活動資金

【佐賀県支部】 P：11～14

- ・活動資金調達について
- ・災害救助犬事業
- ・セラピードッグ事業
- ・動物福祉事業関連
- ・大町町地域おこし協力隊
- ・大町拠点「MORE WAN」に関して

【企画広報事業】 P：15

- ・収入
- ・ご寄付ご支援

■日本レスキュー協会全体の動き

・組織

理事長 : 多田 修
副理事長 : 松崎 直人
理事(相談役) : 吉永 和正
理事 : 河合 伸朗
理事 : 北畑 英樹
理事 : 岡 武
理事 : 安随 尚之
理事 : 高木 美佑希
理事 : 赤木 亜規子
理事 : 辻本 郁美
理事 : 清水 秀和
監事 : 鵜飼 卓

職員数 : 16名

(事務局) 多田 修

(事務局) 松崎 直人 (事務局長代行)

(事務局) 岡 武 (事務局長補佐)

(事業部)

高木 美佑希 (災害救助犬事業責任者)

高橋 玲衣 (災害救助犬事業スタッフ)

三枝 和佳 (災害救助犬事業スタッフ)

野田 尚貴 (災害救助犬事業スタッフ)

吉川 侑里 (災害救助犬事業スタッフ)

赤木 亜規子 (セラピードッグ事業責任者)

辻本 郁美 (動物福祉事業責任者)

赤窄 達也 (動物福祉事業スタッフ)

松崎 直人 (企画広報事業責任者)

南園 彩子 (企画広報スタッフ)

(佐賀県支部)

岡 武 (佐賀支部支部長)

織口 真己子 (佐賀県支部全般スタッフ)

平田 朱里 (佐賀県支部全般スタッフ)

(管理部)

清水 秀和 (経理総務責任者)

中原 あゆみ (経理担当者)

中西 眞次 (経理アルバイト)

■事業の成果

【災害救助犬事業】

令和6年度も継続して災害救助犬の育成・派遣を実施しました。

・災害対応

■石川県能登半島豪雨災害

2024年9月22日に発災した能登半島豪雨災害に対し、輪島市からの要請を受け、22日に災害救助犬4頭（太陽、陸、カミーノ、楽）、隊員6名が輪島市へ出動し3日間活動しました。現地災害対策本部では、協定のある大阪府吹田市が対応していたため、円滑に協議が進められました。また、本災害では「カミーノ」と「楽（たの）」が初出動となり、4頭を派遣することが出来たので、現地では2チームに分かれた搜索も可能となりました。消防（大阪府大隊、滋賀県隊、愛知県隊、金沢市消防局等）、警察、自衛隊と連携し、倒壊家屋や堆積物、川沿いを中心に搜索を実施。搜索以外でも、消防車両への同乗やバギーの運用など柔軟な連携が様々ありました。

24日（火）、自衛隊第14普通科連隊と連携し塚田川上流を搜索した現場では、災害救助犬「太陽」「楽」が吸い込まれるような行動と自信に満ちた尻尾の動き、集中力、鼻の使い方など、これまで搜索した現場とはわずかに異なる様子を示し、その反応を自衛隊に報告。翌日、約1メートルの土砂下から高齢女性1名が発見されました。

・災害救助犬の標準化に向けた事業

■京都市消防局（9月5日、11月20日）

京都市消防局にて講義とロープ技術を活用した救助犬搬送訓練を行い、高所からの災害現場へのアプローチ要領等を習得することが出来ました。11月は東近畿緊急消防援助隊合同訓練を通してより実践的な訓練に参加しました。

■大阪南消防組合（9月16日）

柏羽藤環境クリーンセンターにて大阪南消防組合及び柏原市消防団と合同で、土砂災害対応訓練に参加しました。富田林市消防は昨年度も山の搜索訓練を行うなど、救助犬の理解や顔の見える関係性があります。現在、協定締結のお話もあり、災害時のより迅速な連携に向けて進めています。

■神戸市消防局（10月9日）

地震土砂風水害を想定した搜索・救助訓練に参加しました。ドローンによる被災状況の把握後、災害救助犬が搜索。2016年から本格的に動き出した神戸市消防局との取り組みは少しずつ形となって活かされ、救助犬たちがスムーズに活動できる訓練となりました。

■緊急消防援助隊 山形県大隊合同研修会（10月16日）

研修会では災害救助犬の運用方法や現場での連携について、また被災地での活動事例などの講義とロープ訓練、連携模擬訓練を行いました。令和4年12月に発災した山形県鶴岡市土砂災害での出動を機に、令和6年8月に協定締結、そして講義と連携訓練の実施が実現しました。

■川西市消防本部（11月13日～14日、1月30日）

川西市消防本部にて高所での昇降訓練を中心とした救助犬の輸送訓練及び、ハンドラーの降下訓練を行いました。本訓練は、ハンドラーのロープ技術の向上を目的に川西市消防本部に全面協力頂いています。また1月30日（木）には山岳連携訓練を初めて実施。犬たちの搜索や情報収集、連携等、積極的な意見交換を交わしながら訓練を実施することが出来ました。

■堺市消防局（2月13日～2月14日）地震災害救助訓練

堺市消防局にて行われた地震災害救助訓練に参加しました。訓練では救助犬を初めて運用する隊との連携もあり、救助犬の運用方法など現場での積極的なコミュニケーションを図りながら取り組みました。能登半島豪雨災害時に連携した隊員の方とも意見交換をすることが出来ました。

■伊丹市消防局、陸上自衛隊（2月24日、3月5日～6日）

2月24日、伊丹市消防局にて講義を行いました。救助犬の利点や課題、運用方法、実災害の紹介等をお伝えし顔の見える関係の構築を図りました。また3月5日～6日には、陸上自衛隊伊丹駐屯地で実施された土砂災害合同救助訓練に参加。実災害に近い状況が再現されていた中、自衛隊、消防と連携を図りながら関係機関との連携をより強化することが出来ました。

その他、緊急消防援助隊訓練や協定を締結している地域の防災訓練に参加しました。

■協定締結

新たに1つの自治体と締結し、協定先は62か所になりました。

■他機関（団体）との訓練

他団体の訓練施設の使用や練習会への参加を通して、他の救助犬団体と横の繋がりの強化を図りました。

・REDOG 訓練会

11月21日（木）～22日（金）、スイス講師（リンダ・ホルバート氏、マリーナ・タリンスキー氏）による訓練会に参加しました。ハンドラーの知識技術の向上に努め、全国各地から集結した救助犬関係者との積極的な交流を図りました。

・長野遠征訓練

9月30日、2025年8月25日～27日、長野県八ヶ岳国際救助犬育成センターの瓦礫施設を使用し訓練しました。訓練では、大島ドッグスクールの大島氏に指導頂きハンドラーのスキルアップも図ることが出来ました。

・埼玉県遠征訓練

3月10日～12日、日本救助犬協会が所有する瓦礫施設を使用し訓練しました。初めて使用した訓練施設でしたので、犬たちにとって有効的な訓練を行うこと出来、また他団体との交流も図ることが出来ました。

・HRD セミナー

11月27日～28日、静岡県浜松市で開催された、アメリカで遺体搜索犬を扱う講師を招いたセミナーに参加し、実技を通して訓練方法等を学びました。実災害ではご遺体の発見が多いため、今回学んだ知識を現場にいかしたいと思います。

・育成

災害救助犬候補犬の導入

2頭

(2025/4/23 生、ラブラドルレトリバー、雄)

(2025/5/19 生、ラブラドルレトリバー、雄)

・活動資金 計 8,927,048 円

■企業支援 / 助成金 / その他 (計 4,538,157 円)

- ・東京センチュリー株式会社 (¥1,069,300)
- ・一般社団法人生命保険協会 (¥600,000)
- ・神戸マラソンフレンドシップバンク助成金 (¥200,000)
- ・講演デモンストレーション派遣料、授業料、募金等 (¥2,668,857)

■Yahoo! ネット募金 (9月～8月) 計 697,653 円 (毎月の継続寄付者 38 名)

■Syncable (クラウドファンディング) (9月～8月) 計 3,691,238 円

「災害救助犬訓練犬「湊」のバースデーネーション」 (¥449,780)

「災害救助犬「楽」のバースデーネーション」 (¥337,756)

「災害救助犬「カミーノ」のバースデーネーション」 (¥781,531)

「災害救助犬「太陽」のバースデーネーション」 (¥369,613)

「災害救助犬訓練犬「道」のバースデーネーション」 (¥306,545)

単発・継続寄付 (¥1,446,013)

ブランドブレッジ (¥142,980)

【セラピードッグ事業】

令和6年度も継続してセラピードッグの育成・派遣を実施しました。

・被災地慰問

■令和6年能登半島地震（令和6年12月13～15日・令和7年5月10日～12日／石川県金沢市・輪島市・珠洲市・七尾市・能登町）

能登半島地震の被災地支援として、セラピードッグによる慰問活動を継続的に実施しました。被災地で環境の変化により孤立しがちな子どもや高齢者をはじめとする被災者、さらには共感疲労に陥りやすい支援者の双方に対し、精神的なケアと癒しを提供することを目的としています。

避難所やサロンを訪問した結果、セラピードッグとの交流は、人々の不安を和らげ、笑顔や自然な会話を生み出し、コミュニティの絆を深める役割を果たしました。特に、子どもたちが心を開き、思い切り遊べる「居場所づくり」に大きく貢献いたしました。復興は長期にわたるため、今後も様々な支援団体・行政機関と連携を密にし、被災者と支援者に寄り添う形で長期的な支援活動を継続してまいります。

■熊本地震（令和7年4月12日／熊本県熊本市東区）

熊本地震発災から9年を迎えた熊本県を訪問しました。震源地に隣接する秋津第三公民館の地域コミュニティ食堂でのセラピードッグたちとの触れ合いは、地域の皆様に笑顔と会話のきっかけをもたらし、防災意識の維持と心の復興を支える地域コミュニティの絆を深めました。今後も長期的に地域の歩みに寄り添い、心の支えとなるよう活動を継続してまいります。

・福岡県ワンヘルス事業

【収入】¥132,975

前年度の障がい福祉課に続き、今年度は福岡県「教育庁特別支援教育課」との事業契約を締結しました。県立特別支援学校2校（田主丸特別支援学校、福岡高等学園）で、ドッグセラピーを計画的・効果的に実施し（実施日：11月28日、12月15日）、教育・療育・医療の専門家と連携しその効果を分析・検証します。また、発達障がい児童の個別フォローアップも継続中です。

ワンヘルスの取り組みは4年目を迎え、本事業がモデルとなり、県内の支援学校や病院など他施設への活動の広がりを見せています。

・ワンヘルス事業から繋がった福岡県での活動

■宇美町立学びの多様な学校（令和7年5月27日・6月30日・8月22日）

【収入】¥109,500

■福岡県児童発達支援センターしいのみ学園（令和7年6月27日・7月25日・8月25日）

【収入】¥150,000

■福岡県桜十字大手門病院（令和7年7月27日）

【収入】¥52,500

・セラピードッグ派遣事業

■大阪母子医療センター

【病院訪問】44回／延べ286名

【収入】¥600,000（大阪母子医療センター予算）

■国立国際医療センター病院

【 病院訪問 】 2 回／延べ 12 名

■施設訪問

【 訪問件数 】 123 件

【 収入 】 ¥3,297,020

■セラピードッグハウス

【 収入 】 ¥64,900

・活動資金

■助成金

【大東建託グループ「みらい基金」】 ¥1,000,000

・助成期間／令和 7 年 12 月末まで

・大阪母子医療センターで長期入院中の子どもたちへの支援活動

・国立国際医療センター病院・小児病棟に入院中の子どもたちへの支援活動

・東日本大震災被災地慰問

・セラピードッグ 3 頭（みらい・ハッピー・けんた）の医療費含む育成費

■Yahoo! ネット募金

今年度寄付額：¥290,196

■梅花女子大学・心理こども学部心理学科／非常勤講師

後期 30 コマ（ドッグトレーニング 15 コマ・アニマルセラピー実演 15 コマ） ¥660,000

■その他

・セラピードッグ候補犬の導入

ラブラドル・レトリバー、雌（2024/7/11 生）

【動物福祉事業】

令和6年度も主に動物福祉の向上に関する活動を実施しました。

・犬の保護、引き取り及び管理に関する事業

昨年度から犬2頭の飼養管理を継続、今年度は犬2頭を引き取りました。

令和7年8月31日現在、犬3頭を管理し里親募集を行っています。

・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業

犬1頭を一般家庭に譲渡しました。

・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業

行政収容所（動物愛護管理センター、保健所、警察署など）の収容動物の一般家庭への譲渡率を向上させるため、他の団体や動物愛護活動家と協働し犬11頭と猫9頭に医療費等を支援、犬8頭と猫7頭が一般譲渡に至りました。今年度は1,058,538円を使用して支援しました。

医療費支援の財源は平成28年12月から参画したYahoo!ネット募金「行政に収容された犬や猫に必要な医療を受けさせ里親を見つけない」から充当しました。

・災害への対応

■令和6年能登半島地震・能登半島豪雨災害

令和6年1月に発生した能登半島地震の被災地支援活動の継続とともに、9月に発生した能登半島豪雨災害において現地での支援活動のため出動しました。地震以降継続して開設されている避難所等への巡回および、仮設住宅の訪問支援を継続して行うとともに、豪雨災害で新たに開設された避難所での同伴避難支援を実施しました。

地震で建設された仮設住宅については、3月の時点で珠洲・輪島・能登・穴水の4市町の団地の巡回を完了しました。前年度から合わせて訪問した仮設住宅は、116団地、のべ392軒に上りました。

豪雨災害の対応では、輪島市において、複数の避難所でペットの室内受け入れが実施されたため、輪島市や能登北部保健所、避難所運営支援にあたっていた災害支援ボランティア団体等と連携し、環境設定や飼養ルールの提供、物資サポートなどを行いました。輪島市内の複数の避難所でペットの屋内避難受け入れの決断に至ったのは、地震以降、行政機関および支援団体との連携を継続してきたことが要因にあると考えております。

本災害の活動については、石川県、環境省などに対しても資料提出を伴う報告を行いました。

■令和6年7月山形豪雨災害

昨年度の7月、8月に現地活動を行った戸沢村と鮭川村において、10月の仮設住宅完成を前に、山形県最上保健所から要請を受け、仮設住宅でのペット飼養ルールの作成と資料提供を行いました。合わせて、両村の担当課より仮設住宅のペット飼養世帯の情報の提供を受け、10月と11月に仮設住宅への巡回を実施しました。11月の巡回の際は動物支援ナースと協働し、動物看護師同行での訪問が実現しました。より専門的な対応が可能となり、被災者の安心する様子がうかがえました。

■令和7年8月熊本県豪雨災害

8月10日からの集中的な大雨により、熊本県内の広い範囲で浸水や土砂崩れの被害が発生しました。上天草市や宇城市などで避難所が開設されたとの情報を受け、8月12日に熊本県へ向けて出動しました。

熊本県は、令和7年2月に実施された熊本県（動物愛護センター）主催の市町村担当課の防災研修にお

いて登壇の実績があり、活動にあたっては県動物愛護センター（アニマルフレンズ熊本）と連携して活動を行いました。

活動期間は8月13日～14日の2日間で、上天草市、八代市、氷川町、美里町、宇城市の避難所を巡回、ペット連れの避難状況の確認を行いました。調査時点ではペット連れ避難者はいみせんでしたが、発災直後に受け入れた実績等についても聞き取りをし、県愛護センターに報告しました。

また、県愛護センター常設の相談窓口で、災害関連の相談を受け付けることが決定されたため、チラシによる拡散や必要物資の提供などのサポートを行いました。

・ペット防災に関する活動

■自治体の避難所におけるペット連れ避難の受け入れ体制構築のサポート事業

災害時にペットを飼っている方がためらわずに避難するためには、自治体の避難所でのペット連れ避難の受け入れ体制の構築が不可欠となっています。令和6年能登半島地震を受けて改正された内閣府の防災基本計画では、自治体においてペット連れ避難を受け入れることは「被災者支援の観点から」必要であるということが明記されました。特に基礎自治体での避難受け入れの取り組みが加速度的に行われるようになり、専門団体としての助言を求められることが増えています。

過去の災害での成功事例や佐賀県支部 MORE WAN の取り組みなどを紹介し、各自治体に合わせた体制構築への伴走を重要な取り組みとして進めています。

■ペットとの避難に関する啓発活動

自治体や地元の団体から依頼を受け、飼い主向けのペットの防災講座に登壇し、ペットの飼い主に向けて「災害に対する備え」の重要性を知ってもらうための啓発活動を実施しています。

飼い主には災害時であってもペットを守り飼育続ける責任があることを改めて伝え、そのためには日ごろからの備えがとても重要であることを飼い主に知ってもらうとともに、「災害現場や避難所での事例」「備えておくべき非常用持出品」「日ごろから取り組むべきしつけ」などについて発信を行っています。

■災害時のペットに関連した支援を行う専門機関等との連携体制構築及び情報共有に関する事業

獣医師会や動物専門学校、動物病院、災害時のペット支援を行う団体など、災害時にペットと飼い主への支援活動を実施する、または何かしらの活動を実施したいと考えている関係先の方に向けて、現地での活動や実活動での役割、他機関との連携などについて意見交換や講演などを行いました。

多発する災害に接し、「何かできることがないか」と思っている方は多く、特に業として取り組みをしている専門家の災害時の支援活動には期待を寄せています。今後、具体的なネットワークの構築などに繋げられるような関係性づくりも視野に入れ、情報交換などをより活発に継続していきたいと考えています。

・犬のしつけ方教室

本部開催のしつけ方教室を継続しています。延べ7件対応、26,000円を売り上げました。

スーパービバホーム大阪ドームシティ店「愛犬しつけ方教室」10回開催、25件、40,700円を売り上げました。

・保護犬から災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業

今年度は該当する保護犬がなく、実施していません。

・活動資金

■Yahoo!ネット募金

今年度寄付額：296,666 円

■その他

事業収入：1,593,235 円（講演、防災講座、しつけ、イベント対応など）

【佐賀県支部】

佐賀県支部は 2016 年の熊本地震をきっかけとして立ち上げた。当時九州圏域では災害救助犬の派遣に関する協定は一つもなく活動に支障をきたした。このことから佐賀県に拠点を構え地域に根付いた活動を行うことで協会活動全体の認知拡大を目指している。このことで九州圏域では福岡県に続き 2 つ目となる佐賀県との協定締結が 2024 年 3 月 21 日に実現した。これは災害救助犬の派遣にとどまらずセラピードッグによる被災者支援、ペット飼養世帯支援が含まれる包括的な協定内容となった。これら行政とのつながりを基盤として活動している中で、佐賀県危機管理防災課主催の佐賀県内実働機関連携訓練（佐賀県、佐賀県警察、佐賀県内 5 消防機関、陸空自衛隊）が 2025 年 2 月 4 日に佐賀県支部拠点「MORE WAN」にて実施、災害救助犬による捜索もこれに加えられ、佐賀県内での活動の定着が更に進んだ。

佐賀県杵島郡大町町の佐賀県支部拠点「MORE WAN」にて事業を展開中。平時には防災に関する講座やイベント、災害時にはペット同行・同伴避難所としての運営を継続している。特に官民一体となったペット同行・同伴避難所を大町町と連携して運用していることが県内外多くの自治体や組織に注目され研修・視察等受け入れの依頼は多い。加えて佐賀県内の災害中間支援組織である佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）は「MORE WAN」敷地内に隣接する大町町所有建物「ソレイユ」の指定管理を任せられ、ここと連携することで災害時の活動を円滑にするだけでなく平時より防災に関する研修や講座などの取り組みを行うことで佐賀県の防災・減災力の向上に共に寄与している。また一般のお客様を迎え入れるためにドッグランエリアおよびキャンプ場エリアを整備し利用者の拡大を図っている（2025 年 8 月 31 日時点で約 320 名の登録あり）。今後更に設備や訓練エリアの整備を経て利用者の拡大に繋げていく。

また休眠預金を活用した事業に採択され、「(主題) 災害時要配慮者支援と防災減災の仕組みの強化」「(副題) 特にペット飼養世帯（人）の安心安全につながる避難所の拡大と充実」の事業を展開中。

災害救助犬の育成については中長期計画として、本部にてハンドラー（2024 年 4 月入職）と災害救助犬（2025 年 7 月導入）を育成中、2026 年 4 月に佐賀県支部に異動予定。

○活動資金調達について

活動資金源として、ふるさと納税による資金調達を継続

ふるさと納税寄付額 19,633,900 円（2024 年 9 月～2025 年 8 月末）

2025 年 2 月 17 日～2025 年 5 月 17 日（90 日間）ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」にて設定金額 100 万円の GCF（ガバメントクラウドファンディング）開始。タイトルは「人と動物と地域の安全を守る、防災減災の総合拠点「MORE WAN」で災害救助犬を育成したい！」1,223,500 円集まり、目標金額の 122.3%にて終了。

・地域おこし協力隊として佐賀県支部職員が活動継続中

地域おこし協力隊前期精算（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月末日）：4,309,755 円

地域おこし協力隊予算（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月末日）：4,341,404 円

・休眠預金を活用した事業に採択され、「(主題) 災害時要配慮者支援と防災減災の仕組みの強化」「(副題) 特にペット飼養世帯（人）の安心安全につながる避難所の拡大と充実」とした事業を佐賀県および福岡県にて展開中。行政、社協、CSO に加え企業を担い手とする 4 者連携の枠組みにて実施。

事業期間：2025 年 5 月 25 日～2027 年 2 月 28 日

事業総額：52,000,000 円

助成金額：42,000,000 円

自己資金：10,000,000 円

○災害救助犬事業

- ・佐賀県消防学校研修

佐賀県内 5 消防本部次期救助隊員への研修として、災害救助犬の概要、運用に関する講義および捜索活動デモンストレーションを実施。佐賀県内での災害救助犬の活動実績は少ないため災害救助犬への理解を深められる機会となった。

- ・佐賀県主催実働機関連携訓練

MOREWAN にて佐賀県危機管理防災課、佐賀県警察、佐賀県内 5 消防本部、陸空自衛隊、日本レスキュー協会連携訓練を実施。ブラインド想定にて災害救助犬を活用した捜索救助訓練が実施された。九州圏域でこのような本格的な訓練は他になく、他機関に対して災害救助犬への理解を深める良い機会となった。

○セラピードッグ事業

- ・特になし。

○動物福祉事業関連

- ・特になし。

○大町町地域おこし協力隊

- ・大町町地域おこし協力隊研修会

2024 年 9 月 26 日、佐賀県地域おこし協力隊研修会が行われた。研修会では 2 名の講師が講演され、地域おこし協力隊として経験されてきたこと、現役の方へ伝えたいことをお話しいただいた。また、地域おこし協力隊研修会は定期的に開催されている。

- ・大町町恵比須地区 MOREWAN 見学

2023 年 10 月 9 日、コープさが生活協同組合の方約 30 名が MOREWAN 施設の見学に来られた。当日はペット防災講座、日本レスキュー協会の活動紹介、佐賀県支部 MOREWAN 施設の仕組み、施設案内を行った。

- ・MOREWAN 避難所体験会

2024 年 10 月 26 日、日本レスキュー協会佐賀県支部「MOREWAN」にてペット飼養世帯を対象とした避難所体験会を行った。

日中、アニマルヘルスケアサポート楓様よりペットとの災害時の過ごし方、リラックス効果のあるマッサージのやり方などの講座を行っていただいた。また、ペット用おやつ、物販販売、募金活動などを行った。宿泊時には参加者の方同士でやり取りを行い屋内用テントの設置、防災食作り等を行った。最終日にアンケートを取った結果、「勉強になった」「また参加したい」などの声を聞け、今後も避難所体験会を行っていかうと思った。

- ・鳥栖弥生が丘社会福祉協議会視察

2025 年 10 月 29 日、鳥栖弥生が丘社会福祉協議会約 20 名の方が日本レスキュー協会佐賀県支部「MOREWAN」に視察に来られた。日本レスキュー協会の活動、ペット防災、MOREWAN の仕組み等の紹介を行った。

- ・佐賀県白石高校防災学習

2024 年 11 月 5 日、佐賀県白石高校の授業の一環として日本レスキュー協会佐賀県支部「MOREWAN」

で避難所体験を行った。

- ・鹿児島県獣医公衆衛生講習会

2024 年 11 月 22 日、鹿児島県獣医公衆衛生講習会を行った。日本レスキュー協会の活動紹介、ペット防災の活動、避難所体験などを行った。また、講習会後には多くの質問や感想をいただき日本レスキュー協会の活動を知っていただくいい機会になったと感じた。

- ・地域おこしイベント アロマワークショップ

2024 年 12 月 8 日、日本レスキュー協会佐賀県支部「MOREWAN」でアロマワークショップを開催。災害時にアロマオイルを使用した肉球クリームを参加者様と共に作成した。イベント当日は多くのお客様に足を運んでいただき大盛況だった。

- ・佐賀県春日北小学校 職業講話

2024 年 12 月 10 日、佐賀県春日北小学校へ職業講話を行った。講話では地域おこし協力隊の活動内容、日本レスキュー協会の活動紹介、ペット防災の話を行った。講座後には児童から積極的に質問を受け、有意義な時間を過ごせたと感じている。

- ・大町町地域おこし協力隊研修会

2024 年 12 月 11 日、日本レスキュー協会佐賀県支部「MOREWAN」で大町町地域おこし協力隊での研修会を行った。研修会では地域おこし協力隊で行うイベント企画を行った。

- ・MOREWAN ペット防災七夕祭り

2025 年 1 月 18 日、福岡県三潞郡大木町にペット防災ミニ講座を行った。参加者様へ防災グッズの紹介、日本レスキュー協会の活動、ペット防災講座、ケージトレーニングを行った。講座終了後には「勉強になった」「さっそく試してみます」などの声を聞いた。

- ・地域おこし協力隊 避難所宿泊体験会

2025 年 2 月 15 日～16 日、日本レスキュー協会佐賀県支部「MOREWAN」にて実際の避難所の環境を体験し、ペットと共に過ごす際の注意点を理解し、防災について考えるきっかけ作りを目的とした避難所体験会を行った。

- ・地域おこし協力隊イベント 救助体験アドベンチャー

2025 年 3 月 16 日、日本レスキュー協会佐賀県支部「MOREWAN」にてイベントを開催。当日、災害救助犬デモンストレーション、防災グッズの展示、ペット用おやつ販売、救助犬体験などを行った。

- ・大町町地域おこし協力隊研修

2025 年 5 月 23 日、大町町地域おこし協力隊の研修会を行った。地域おこし協力隊、大町町役場でイベントの企画を話し合った。

- ・地域おこし協力隊研修会

2025 年 6 月 19 日、佐賀県地域おこし協力隊研修会が行われた。研修会では地域おこし協力隊活動についての意見交換や紹介などが行われた。

- ・大町町地域おこし協力隊 防災親子デイキャンプ

2025 年 7 月 29 日、大町町地域おこし協力隊防災親子デイキャンプを開催。大町町地域おこし協力隊のそれぞれの活動内容を活かしイベントを行った。

○大町拠点「MORE WAN」に関して

令和 4 年 4 月に動き出した町拠点「MORE WAN」は、ふるさと納税の寄附金を主な財源として引き続き佐賀県西部の災害支援拠点としても稼働している。災害時また災害発生予測時にはペット同行・同伴避難所として活用される。また継続的に九州ブロック社会福祉協議会の支援資機材の保管場所に活用されるための仕組みを持っている。

【ペット同行避難所開設・閉鎖】

- ① 令和 7 年 8 月 9 日 19:00～8 月 10 日 8:30

【避難訓練・イベント開催等】

- ・令和 6 年 11 月 30 日 令和 6 年度佐賀県原子力防災訓練参加
佐賀県玄海町の玄海原子力発電所の事故を想定して県下で行われる訓練であり、MORE WAN はペットと一緒に避難された方の受け入れ態勢を整える想定で参加。

【イベント出展】

- ・令和 6 年 9 月 15 日
「マルシェ「職人たちの宝島」」物販、募金活動、能登半島地震の支援活動写真展示、パンフレット配布
- ・令和 6 年 10 月 20 日
「第 1 回六角リバーフェス」物販、募金活動、パンフレット配布
- ・令和 6 年 10 月 31 日
「2024 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」災害救助犬デモンストレーション、ふれあい、物販、募金活動、活動写真の展示、パンフレット配布
- ・令和 6 年 11 月 10 日
「佐賀市人と動物の共生フェスタ」物販、募金活動、能登半島地震の支援活動写真展示、パンフレット配布
- ・令和 6 年 4 月 20 日
「唐津市イベント「春に集う」」災害救助犬デモンストレーション、ふれあい、物販、募金活動、パンフレット配布

【企画広報事業】

■収入

- ① 会費収入 実績 9,114,835 円 (計画▲225 万、前年▲56 万)
賛助会員→計画・前年共に未達 (計画▲84 万、前年▲34 万)
ドックスポンサー→計画・前年共に未達 (計画▲90 万、前年▲94 万)
法人会員→計画未達・前年達成 (計画▲50 万、前年+72 万)
前年 46 企業に対し、本年 61 企業となり 15 企業プラスとなった。
- ② 寄付金収入 実績 86,560,425 円 (計画▲625 万、前年▲1 億 4 5 5 万)
計画については IntrepidJapan 助成金が開始遅れと金額の間違いの為に▲1,000 となったことが大きな要因。前年に対しては Yahoo ネット募金能登半島地震支援で▲6,816 万、能登半島災害で▲2,964 万となり合計 1 億近くのマイナスとなった。
募金箱収入 3,314,892 円 (計画▲237 万、前年▲79 万)
計画 550 店舗に対し、407 店舗で 143 店舗マイナスの結果。(新規 37 店舗増)
街頭募金収入 1,187,761 円 (計画▲101 万、前年▲13 万)
物販売上 1,948,920 円 (計画▲87 万、前年+65 万)
計画については新アイテムの納期が遅れたことが大きな要因 (商品アイテムが少ない)
前年に対してプラスの要因はイベントなどで企業様が従業員への呼びかけや団体様が周りに呼びかけ販売に協力していただいたことと新アイテム追加したことプラスの結果。
- ③ 助成金収入 実績 10,657,450 円 (計画▲178 万、前年+583 万)
前年に対し、佐賀災害支援通常助成金として 644 万がプラスの要因となっている。
- ④ 事業収入 実績 17,158,950 円 (計画+1,434 万、前年+468 万)
計画については佐賀県支部のみプラス 375 万の結果。前年に対しては災害救助犬事業のみマイナスの結果であった。(約 8 万) 大きくは佐賀県支部が 282 万プラスの結果。企画広報としては広告収入をスタートできていないことがマイナスの要因。

■ご寄付ご支援

- ・あおぞら銀行マッチング寄付プログラムで 250 万。Intrepid Japan100 万、大阪ガス助成金 50 万、皓養社 150 万
- ・森乳サンワールド 毎月フード支援、

以上